日本環境教育学会 第 27 回大会(東京)

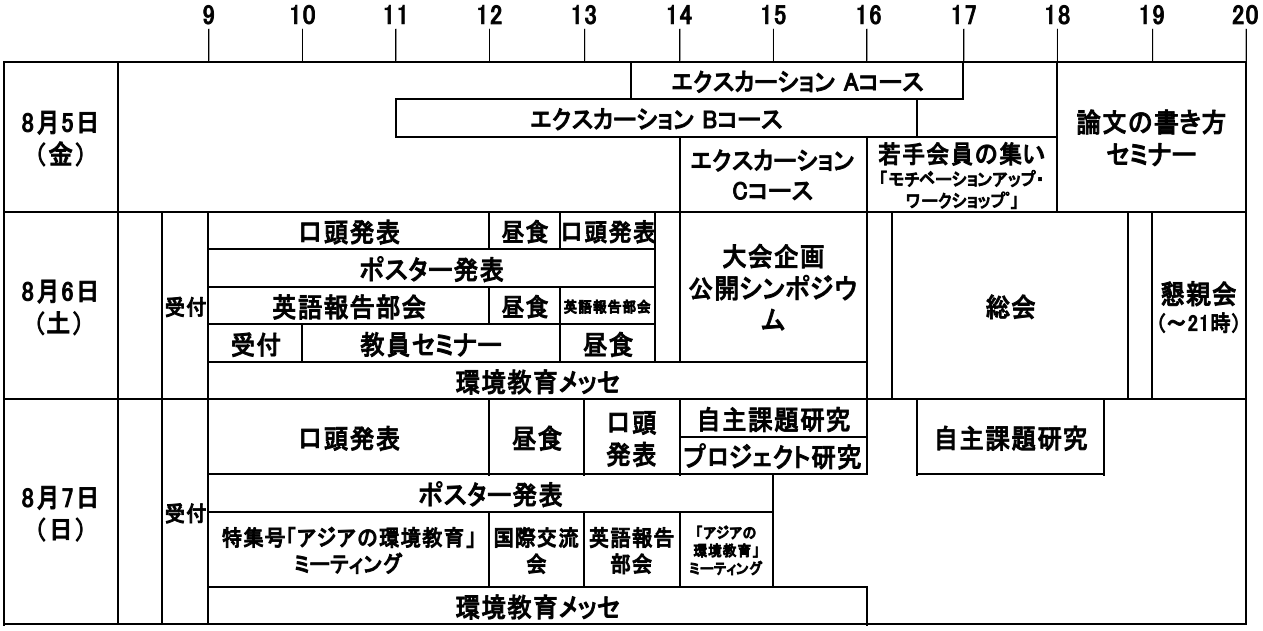
「環境教育が切り拓く持続可能な社会づくりと
アクティブ・ラーニング」

大会案内・プログラム

２０１６年8月５日（金）～8月７日（日）

主催：日本環境教育学会
会場：学習院大学

第27回大会時程



＜開催概要＞

■ 期間　2016 年 8 月 5 日（金）～ 8 月 7 日（日）

■ 会場　学習院大学（目白校地）西２号館・西１号館・北１号館・輔仁（ほじん）会館食堂

■ 主催　日本環境教育学会（第 27 回大会実行委員会）

■ 後援　文部科学省・環境省・経済産業省・国土交通省・農林水産省・豊島区教育委員会・
全国小中学校環境教育研究会・（公社）日本環境教育フォーラム・
東京都教育委員会（教員セミナーのみ）

■ 日本環境教育学会第 27 回大会実行委員会事務局
〒171-8588　東京都豊島区目白 1-5-1
学習院大学文学部教育学科（飯沼研究室内）気付
電話　03-5904-9338　FAX 03-5992-1239E-mail ＜20130001@gakushuin.ac.jp＞

■ 日本環境教育学会事務局（平日 10 時～17 時）
〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内
電話 03-5307-1175　FAX 03-5307-1196　E-mail ＜jsee@univcoop.or.jp＞
日本環境教育学会ウェブサイト＜http://www.jsoee.jp＞

＜学習院大学へのアクセス＞　〒171 - 8588　東京都豊島区目白１－５－１

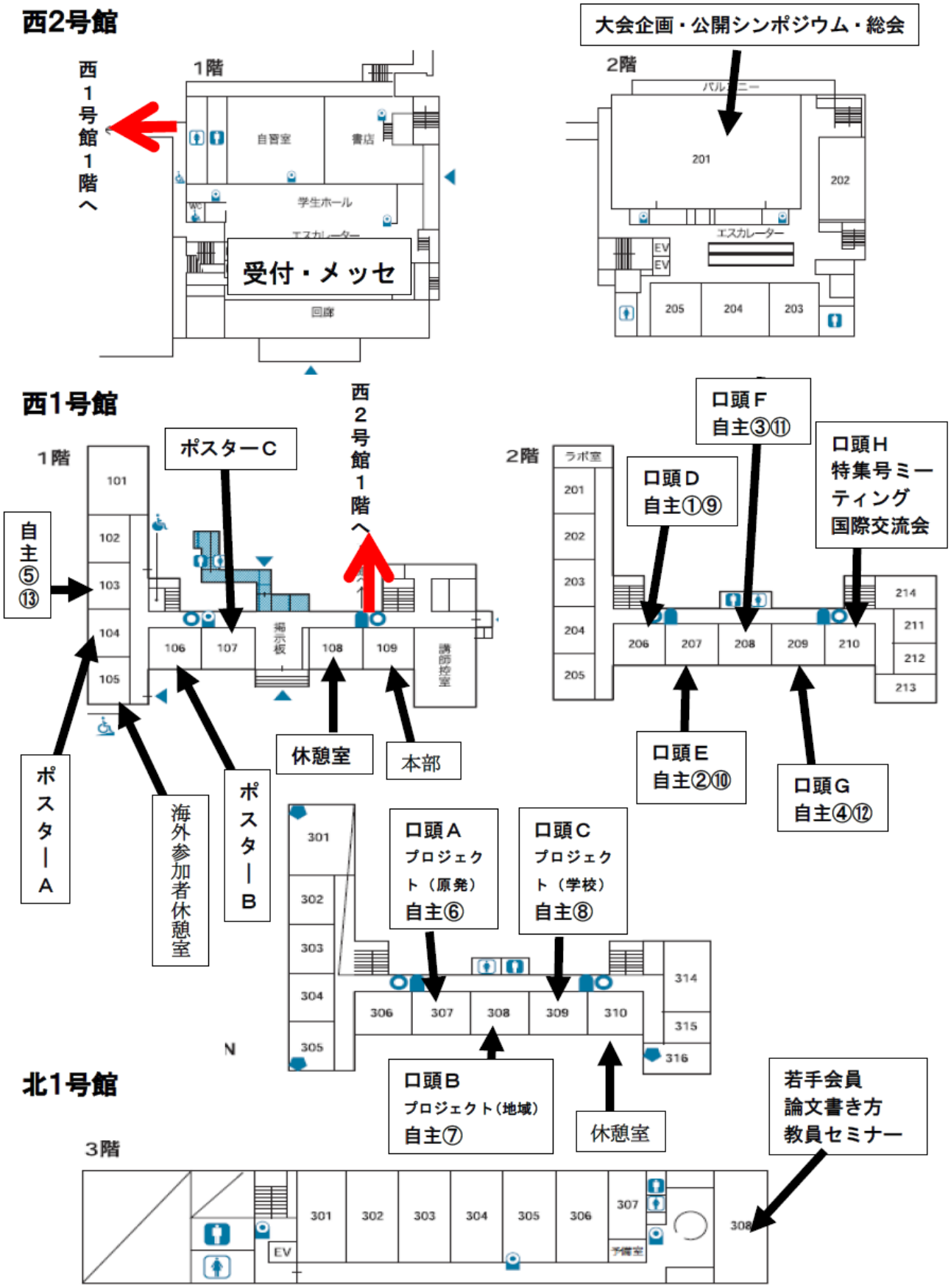
詳細は以下のサイトを参照してください。http://www.univ.gakushuin.ac.jp/access.html

東京	約25分 JR 山手線			目白
八王子	約40分 JR 中央線中央特快線	新宿	約6分 JR 山手線	
町田	約30分 小田急線快速急行	新宿	約6分 JR 山手線	
横浜	約30分 東急東横線特急	渋谷	約15分 JR 山手線	
大宮	約25分 JR 湘南新宿ライン快速	池袋	約2分 JR 山手線	
川越	約35分 東武東上線急行	池袋	約2分 JR 山手線	
柏	約25分 JR 常磐線	日暮里	約15分 JR 山手線	
千葉	約50分 JR 総武線	秋葉原	約20分 JR 山手線	

空港からの交通アクセス

羽田空港	約20分 東京モノレール空港快速	浜松町	約30分 JR 山手線	学習院大学
成田空港	約40分 京成スカイライナー	日暮里	約15分 JR 山手線	

・JR 山手線「目白」駅下車　西門まで徒歩 30 秒
・東京メトロ副都心線「雑司ヶ谷」駅下車　徒歩７分
・都電荒川線「学習院下」、「鬼子母神前」駅も利用可


西2号館
大会企画・公開シンポジウム・総会
西1号館1階へ
1階
自習室
書店
学生ホール
受付・メッセ
回廊
2階
201
202
エスカレーター
EV
EV
205
204
203
西1号館
西2号館1階へ
1階
ポスターC
101
102
103
104
105
106
107
掲示板
108
109
講師控室
自主⑤⑬
ポスターA
海外参加者休憩室
ポスターB
休憩室
本部
2階
ラボ室
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
口頭F
自主③⑪
口頭D
自主①⑨
口頭H
特集号ミーティング
国際交流会
口頭E
自主②⑩
口頭G
自主④⑫
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
314
315
316
口頭A
プロジェクト（原発）
自主⑥
口頭C
プロジェクト（学校）
自主⑧
N
口頭B
プロジェクト（地域）
自主⑦
休憩室
北1号館
3階
若手会員
論文書き方
教員セミナー
EV
301
302
303
304
305
306
307
予備室
308

〈会場のご案内（教室）〉

校舎	階	教室	8月5日（金）	8月6日（土）		8月7日（日）			
			PM	AM	PM	AM	13:00～14:00	14:00～16:00	16:30～18:30
西1号館	3	307		口頭 A	口頭 A	口頭 A	口頭 A	プロジェクト（原発）	自主課題 ⑥
		308		口頭 B	口頭 B	口頭 B	口頭 B	プロジェクト（地域）	自主課題 ⑦
		309		口頭 C	口頭 C	口頭 C	口頭 C	プロジェクト（学校）	自主課題 ⑧
		310		参加者休憩室					
	2	206		口頭 D	口頭 D	口頭 D	口頭 D	自主課題 ①	自主課題 ⑨
		207		口頭 E	口頭 E	口頭 E	口頭 E	自主課題 ②	自主課題 ⑩
		208		口頭 F	口頭 F	口頭 F	口頭 F	自主課題 ③	自主課題 ⑪
		209		口頭 G	口頭 G		口頭 G	自主課題 ④	自主課題 ⑫
		210		口頭 H（英語）	口頭 H（英語）	特集号「アジアの環境教育」ミーティング・国際交流会(昼)	口頭 H（英語）	特集号「アジアの環境教育」ミーティング総合討論	
	1	103						自主課題 ⑤	自主課題 ⑬
		104		ポスター A					
		105		海外参加者休憩室					
		106		ポスター B					
		107		ポスター C					
		108		参加者休憩室					
		109		大会本部					
西2号館	1	ロビー	大会受付						
			環境教育メッセ						
	2	201		大会企画・公開シンポジウム					
					総会				
輔仁会館	1	食堂			懇親会				
北1号館	3	308	若手会員の集い	教員セミナー					
			論文の書き方セミナー						

＜参加者の皆様へ＞

１．大会全般について

- 大会期間中、大会受付は、西２号館１階のロビーに設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- 会場内では、大会受付でお渡しする参加票（名札）を必ず首から提げるようにしてください。（一般入場者の方と名札によって判別いたします。）
- 大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- 喫煙は、指定の喫煙場所にてお願いします。西２号館と輔仁会館の間（屋外）に喫煙スペースが設置されています。

２．お食事について

- 休憩や持ち込まれた食事の場所といたしまして、西１号館３階 310 教室と１階 108 教室が利用できます。昼食につきましては、学生食堂が休みのため、お弁当等をあらかじめご持参いただくか、セブンイレブン（輔仁会館２階 8:00～18:00）もしくは駅周辺の食堂もしくは大学外コンビニエンスストア等をご利用ください。

３．会場について

- 自家用車でのご来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- 会員の休憩室を　西１号館３階 310 教室と１階 108 教室に設置します。クロークはございませんので、こちらを荷物置場としてご自由にご利用ください。ただし貴重品等は各自が保管し、絶対に休憩室内に置かないようにしてください。

４．その他

- ATM は、西５号館１階に三菱ＵＦＪ銀行（土曜日 9:00～15:00／日曜日取扱いなし）、輔仁会館２階のセブンイレブンにセブン銀行（8:00～18:00）があります。

口頭発表について

日時：8 月 6 日（土） 9：00～12：00、12：45～13：45 ／8 月 7 日（日）9：00～12：00、13:00～14:00
会場（教室）：西 1 号館　3 階 307～309 教室，2 階 206～210 教室

１．発表時間

１件 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）で進行いたします。なお、総合討論後の５分間休憩では、座長交代やコンピュータへの PowerPoint データ取り込み等、円滑な運営にご協力ください。発表中の合図は次の通りです。

第１鈴：10 分 第２鈴：12 分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください） 第３鈴：15 分（質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください）

- 発表者は、一つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機していてください。
- 発表者は、はじめに表題と発表者名をご紹介ください。
- 質問者は、はじめに氏名と所属を述べてください。
- 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。
- 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮してください。

２．発表機材について

- 各教室に設置済みの PC を使用してください。PowerPoint（Windows PC）が使用できます。
- PC の操作は発表者の責任で行ってください。なお、持ちこみ PC を利用した発表はできません。
- PowerPoint のデータは、USB メモリや CD-R などで当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になりますので、ご自身の発表があるセッションの開始前（口頭発表開始時刻前、もしくは前のセッションの総合討論の時間中）に、必ず会場備え付けの PC のデスクトップ上にある各セッションのフォルダにコピーしておいてください。

※重要 ウィルスチェックについて

USB メモリを媒介にしたウィルスの被害防止のため、会場に設置してある PC には大変厳しいウイルスチェックソフトがインストールされています。もし持参した USB メモリもしくは CD-R に、何らかのウィルスが入っている場合、会場の PC にファイルを移動することはできません。その場合、研究発表要旨のみで発表いただくことになります。必ず事前に、各自で最新バージョンのウィルス対策ソフトで 、持込みをする USB メモリもしくは CD-R をチェックし、安全を確認してからご持参ください。USB メモリ内には、発表用のファイル以外のものは入れないようご留意ください。なお、PC にファイルを移動するタイミングは、セッション開始前もしくは総合討論と次のセッションの間の時間となりますので、協力して急ぎ行ってください。

※座長のみなさまへ

座長（司会者）はセッション全体を担当していただきます。複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。進行に際しては、くれぐれも時間厳守でお願いします。また、討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

※英語報告部会について

第 27 回大会では、口頭発表・発表要旨・質疑応答・総合討論のすべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。海外からの参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。

ポスター発表について

日時：8 月 6 日（土）9：00～13：45、8 月 7 日（日）9：00～15：00
（8 月 6 日の 12：00～12：45、8 月 7 日の 12：00～13：00 はコアタイム）
場所：西 1 号館 1 階　104，106，107 教室

- ポスターの展示スペースは、1 件につき 縦：1800mm×横：860mm です。
- 発表者は、6 日（土）9：00 までに所定の位置に各自掲示し、7（日）15：00 までに取り外して撤収を完了して下さい。
- この日程で対応いただけない場合は、あらかじめ大会事務局までご相談ください。
- 発表者は質疑応答のため、6 日か 7 日のどちらか 1 日のコアタイムには、ポスターの前で待機してください。両日ともご対応いただけると、より活発な情報交換がなされます。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
- 画びょうは、大会実行委員会で準備いたしますので、必ず指定のものをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- 撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

自主課題研究

日時：8 月 7 日（日）14:00～16:00、16:30～18:30
場所：西 1 号館 3 階 307 教室，２階 206～209 教室，１階 103 教室

14:00～16:00

① 鈴木 善次著「環境教育学原論」を読む ＜206 教室＞
　○植田善太郎（泉大津市立旭小学校、関西支部）

② 持続可能な開発目標（SDGs）を理解し、考える授業とは？ ＜207 教室＞
　○村松陸雄（武蔵野大学工学部環境システム学科）、石井雅章（神田外語大学メディア教育センター）、長岡素彦（NPO 法人　ESD-J 持続可能な開発のための教育推進会議（理事）、福島 ESD コンソーシアム（ESD コーデネーター））、滝口直樹（桜美林大学）、村山史世（麻布大学生命・環境科学部環境科学科）

③ 質的研究法を学ぶ３ ＜208 教室＞
　○野田恵（東京農工大学）、秦範子（東京学芸大学）、高橋宏之（千葉市動物公園）、長濱和代（東京大学大学院）、田開貫太郎（東京農工大学大学院）

④ 石綿環境問題の被害の最小化に向けた教育の検討 ＜209 教室＞
　○榊原洋子（愛知教育大学）、外山尚紀（NPO 法人東京労働安全衛生センター）、久永直見（愛知学泉大学）、斎藤宏（エタニットによるアスベスト被害を考える会）、斎藤紀代美（浦和青年の家跡地利用を考える会）、永倉冬史（中皮腫・じん肺・アスベストセンター）、鈴木正昭（学校アスベストネットワーク）

⑤ 観光の教育力と環境教育 ＜103 教室＞
　○大島順子（琉球大学観光産業科学部）、寺本潔（玉川大学）

16:30～18:30

⑥ 持続可能な社会に向けた生徒・学生の取り組み～学んだことを行動へ～ ＜307 教室＞
　○関口伸一（私立海城中学高等学校）、山藤旅聞（都立両国高等学校・附属中学校）、伊藤麻紀（都

立新宿山吹高等学校）

⑦ 先進自治体の環境教育政策 ―すぐれた政策実践（Good Practice）とその成立条件を探る― ＜308 教室＞

○荻原彰（三重大学）、阿部治（立教大学）、高橋正弘（大正大学）、中口毅博（芝浦工業大）、三石初雄（帝京大学）、水山光春（京都教育大学）

⑧ 環境教育を拓く(3) ＜309 教室＞

○原子栄一郎（東京学芸大学環境教育研究センター）・安藤聡彦（埼玉大学）

⑨ 環境教育プログラムの比較評価を考える ＜206 教室＞

○堀孝弘（京都市ごみ減量推進会議職員，環境教育評価研究会準備会）、正阿彌崇子（特定非営利活動法人とよなか ESD ネットワーク，環境教育評価研究会準備会）

⑩ 海洋教育カリキュラム開発と人間形成 ＜207 教室＞

○日置光久（東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）

⑪ 東アジアの環境教育 ＜208 教室＞

○諏訪哲郎（学習院大学）、石井信子（千葉市公立小学校教員）、元鍾彬(学習院大学講師）

⑫ 持続可能な社会づくりのための、人と野生生物のつきあい方 ＜209 教室＞

○小泉伸夫（農研機構）、小島望（川口短大）

⑬ Terra Green Network project (TGN project)

－ 最新写真アプリ Detail を用いた環境教育・学習プログラムの紹介 ＜103 教室＞

○太田貴大（長崎大学水産・環境科学総合研究科）、Park Junghwan（韓国・建国大学環境科学研究科）、長谷川一総（京都大学農学研究科）、田開寛太郎（東京農工大学連合農学研究科）

※自主課題研究の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。終了時間は厳守でお願いします。

＜大会参加者向けイベント＞

【若手会員の集い「モチベーションアップ・ワークショップ」】
8 月 5 日（金）16：00～18：00／北 1 号館 3 階 308 教室

【論文の書き方セミナー】8 月 5 日（金）18：00～20：00／北 1 号館 3 階 308 教室

【総会】8 月 6 日（土）16：15～18：45／西 2 号館 2 階 201 教室（会員に限ります）

【懇親会】8 月 6 日（土）（受付 18：30～）19：00～21：00／輔仁会館食堂
※会員諸氏からの**お酒等の差し入れを大歓迎**いたします。会場まで直接ご持参ください。
また、できるだけ、**箸・コップ・皿**をお持ちください。少しでも地球に負担をかけない懇親会にしましょう。

【プロジェクト研究】8 月 7 日（日）14：00～16：00 西 1 号館
○学校環境教育パッケージ開発プロジェクト＜309 教室＞
○地域環境教育活性化プロジェクト＜308 教室＞
○原発事故後の福島を考えるプロジェクト＜307 教室＞

【特集号「アジアの環境教育」ミーティング】
8 月 7 日（日）9：00～11：50、14：10～15：00／西 1 号館 210 教室
学会誌「環境教育」の臨時増刊として、特集号「アジアの環境教育」（Web のみで公開）を刊行し、英語を共通言語としてアジア各国及び地域内の環境教育研究及び実践報告を共有する予定です。そこで、2017 年 3 月発行予定の特集号に向けて、各学会の執筆者による報告を受け、共通課題や展望の抽出を行います。（すべてを英語によって進行します）

【国際交流会】8 月 7 日（日）12：00～12：50／西 1 号館 210 教室
本学会は、韓国環境教育学会、台湾環境教育学会、北米環境教育学会、オーストラリア環境教育学会の各学会との交流協定を結んでいます。今大会では「国際交流会」を設け、各学会の最近の取り組みを紹介し、これら協定学会や他国からの参加者との交流を行います。（簡単な逐次通訳あり）（昼食は持ち寄り、お茶やお菓子は準備いたします）

【エクスカーション】8 月 5 日（金） ※参加申し込み等、詳しくは大会ウェブサイト参照
A コース　東京の都市型環境施設とウォーターフロント（担当：元木理寿）
B コース　ESD の視点から考える下町の観光まちづくり ―歴史と文化、開発と保全（担当：萩原豪）
C コース　都市における環境教育と市民団体との関わりについて
－善福寺川を里川にカエル会の活動を通して－（担当：三田秀雄）

＜一般公開イベント＞　※会員以外の方も参加できます

【大会企画・公開シンポジウム】8 月 6 日（土）14：00～16：00／西 2 号館 201 教室／参加無料
　大会企画として、公開シンポジウム「環境教育が切り拓く持続可能な社会づくりとアクティブ・ラーニング」を開催いたします。

基調講演：『持続可能な社会のためのアクティブ・ラーニング』佐藤 学氏（学習院大学）
「持続可能性の教育」は、「科学（science）」と「智恵（wisdom）」と「生き方（a way of living）」と「倫理（ethics）」を結びつける教育で、「持続可能性の教育」がアクティブ・ラーニングを内在的に要請している根拠はここにある。しかし、アクティブな学びになることによって、あるいは体験的な学びになることによって学びが表層的で限定的になる傾向はないだろうか。アクティブ・ラーニングを「深い学び」（deep learning）として実践することは決して容易なことではない。持続可能性の教育においては尚更である。この講演では、持続可能性の学びが「深い学び」として結実するための要件を提示したい。
佐藤 学（学習院大学）：東京大学大学院教授を経て学習院大学文学部教育学科教授。「学びの共同体」を主宰。日本教育学会元会長、全米教育アカデミー終身会員。『学びの快楽』『学校改革の哲学』『学校を改革する』『教師花伝書』『専門家として教師を育てる』など、著書多数。

パネルディスカッション
《パネラー》
佐藤 学
多田 孝志：海外の日本人学校教師を経て、現在、金沢学院大学教授。日本学校教育学会前会長、日本国際理解教育学会元会長。主な著書『対話力を育てる』『光の中の子どもたち』『「地球時代」の授業とは？』など。
小川 かほる：千葉県立中央博物館、千葉県環境研究センターの研究員などを歴任。元日本水環境学会関東支部長、日本水環境学会事務局長、日本環境教育学会監事。
諏訪 哲郎：学習院大学文学部教育学科教授。日本環境教育学会会長、日中韓環境教育協力会代表。主な編著書『加速化するアジアの教育改革』『アクティブ・ラーニングと環境教育』

【教員セミナー】8 月 6 日（土）（受付 9：00～）10：00～12：45／北 1 号館 3 階／要資料代（1500 円）
　学校教育の現場でさまざまな環境教育や持続可能な開発のための教育の実践が求められていることを背景に、環境教育学会大会と連動して、教員セミナーを開催いたします。定員 100 名（先着順）
　※教員セミナーに参加を希望される方は、大会ウェブサイトよりお申し込みください。

【環境教育メッセ】8 月 6・7 日（土･日）9：00～16：00／西 2 号館 1 階ロビー
　一般公開プログラムとして、大会期間中、メッセ会場にて「環境教育メッセ（環境教育見本市）」を開催いたします。環境教育に関する商品や資料の提示、販売のほか、各団体・企業の取り組みを紹介していただきます。

【資料配布スペース】
　大会期間中、会員諸氏が持ち込まれた印刷物やチラシ等の配布を目的としたテーブルを、西 2 号館 1 階ロビーに設置いたします。参加者への配布を目的として、環境教育関連資料等を持ち込まれた方は、こちらのテーブルをご利用ください。なお残部につきましては、8 月 7 日の 15：00 までに撤収を完了してください。この時刻を過ぎて残っている資料につきましては、実行委員会にて処分いたします。なお、事前送付の受付や保管、郵送等による返却は一切行いませんので、ご了承ください。

研究発表

口頭発表

8/6(土)	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A会場 307 国際	[06A01] 佐藤 秀樹 バングラデシュ・クルナ市のウエイスト・ピッカー(廃棄物回収人)を対象とした地域社会内廃棄物管理改善プロジェクト	[06A02] 大森 幸子 途上国の廃棄物削減に向けて —「カンボジアにおけるJICAボランティアと民間企業連携の取り組み」の事例から—	[06A03] 小林 舞衣 途上国に対する環境教育支援と指導者養成	総合討論
B会場 308 野生生物保護	[06B01] 本田 裕子 豊岡市におけるコウノトリ保護と環境教育をめぐる住民の認識について	[06B02] 田開 寛太郎 コウノトリ野生復帰にかかる湿地教育の役割と可能性 —兵庫県豊岡市を事例として	[06B03] 高橋 正弘 対馬市民によるツシマヤマネコ保護領解の実態	総合討論
C会場 309				
D会場 206				
E会場 207 大学・学生	[06E01] 比屋根 哲 いかなる環境活動が学生の「成長」を促すか？	[06E02] 倉本 宣 複数のキャンパスの自然を題材とした大学生の教育	[06E03] 花田 眞理子 大学生によるアクティブ・ラーニングをめざした省エネ授業案作成と授業実施の効果について	総合討論
F会場 208 地域づくり	[06F01] 笹川 貴吏子 「地域おこし協力隊員」の変容過程からの地域づくり再考：茨城県常陸太田市を事例として	[06F02] 孟　蘭 持続可能な地域づくりにおけるリーダー育成に関する考察 —労働者協同組合（ワーカーズコープ）の教育研修を事例として—	[06F03] 谷内口 友寛 京都市「エコ学区」事業3年間の成果と課題	総合討論
G会場 209 市民参加	[06G01] 長濱 和代 「12才の私」が世界のためにできること ～住民参加による資源管理を考える授業実践から～	[06G02] 仙田 考 参加型園庭整備における保護者の関わりについての一考察	[06G03] 小川 かほる 市民がつくる幕張ベイタウン・エコパークを活用して、中学1年生と一緒に行った環境教育プログラム	総合討論
H会場 210				

8/6(土)	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
A会場 307 国際	[06A04] 高橋 敬子 気候変動教育実施に向けた自治体の役割とは ー日本・ドイツ、オーストリアの事例分析に基づいてー	[06A05] 許 容瑜 台湾における児童・生徒の環境意識構造～苗栗県におけるケーススタディ	[06A06] 藤野 純一 京都市環境教育のマレーシア・イスカンダル地域への展開過程の分析	総合討論
B会場 308 森林	[06B04] 服部 真一 副読本を活用した小学校での森林環境教育の実践	[06B05] 井上 真理子 「木」に関する教育活動の展開の可能性 -「森林教育交流会」での発表事例をもとにした分析-	[06B06] 中村 和彦 活動時の映像音声記録により森林体験を省察的に補完する振り返り学習の実践	総合討論
C会場 309 ユネスコスクール・批判的思考	[06C01] 河野 崇 クリティカルシンキングの育成を目指す授業設計 ー捕鯨論争を教材としてー	[06C02] 渡部 裕司 特別活動におけるESDの展開と意義	[06C03] 福井 夏海 正統的周辺参加および真正の学びの視点からみた環境教育／ESDの取り組み ーFEEのエコスクールを事例にー	総合討論
D会場 206 復興	[06D01] 小笠原 潤 環境教育を通して国際理解と防災・復興について学ぶ ～インド洋大津波と東日本大震災の比較～	[06D02] 田中 純一 人間の復興と学生ボランティア：岩手県陸前高田市での4年間の実践活動を通して	[06D03] 石山 雄貴 東日本大震災からの復興を題材とした環境教育の現状と課題	総合討論
E会場 207 幼児教育	[06E04] 増田 直広 2013～2015年度プロジェクト研究「幼児期における環境教育」研究報告	[06E05] 菊池 稔 森のようちえんにおける学習構造 鳥取県智頭町もりのようちえんまるたんぼうを事例に	[06E06] 佐島 群巳 ビオトープの教育資源活用に関する研究（その4）～自然と出会い、対話する活動デザイン～	総合討論
F会場 208 地域づくり	[06F04] 松本 晃一 環境NPOが地域住民及び大学と協働して実施する河川環境教育の実践と課題	[06F05] 井上 大輔 魚部って何だ？ ～地域社会における「フィールドワーク教育」の場としての役割を中心に～	[06F06] 岩佐 礼子 川の記憶がつなぐ人と地域 ～福岡市樋井川流域の今と昔～	総合討論
G会場 209 食・地域・文化	[06G04] 海老原 誠治 食と文化を活用した環境プログラムにおける、行動変容と保護者の影響	[06G05] 福岡 雅子 食品ロスをめぐる環境教育相反事象の検証 ーー学生アルバイトの食品廃棄についてーー	[06G06] 萩原 豪 地域資源および教育資源としての下仁田産桑茶の可能性	総合討論
H会場 210 Cooperation	[06H01] Michitaka Enomoto The Increase of Education Effects by Using External resources -through joining the life's diversity support programs of Kao, teacherfellowship-	[06H02] Su, Yu-Ping Environmental Education Practice in Water resource protection and cross-border cooperation	[06H03] Atsue Okubo Sharing in contemporary Japan —From actual cases of car-sharing—	Discussion

8/6(土)	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
A会場 307 理論	[06A07] 中西 紹一 参加体験型環境教育プログラムに見られる熟達化モデルと行為主体の所在	[06A08] 三谷 高史 美術教育と環境教育の関係についての一考察 －Art and the Built Environment Project（1976-1982）を対象に－	[06A09] 熊澤 峻子 地球の水はどこからきたか	総合討論
B会場 308 水環境	[06B07] 立花 禎唯 企業等の出前授業を組み込んだ水文化教育 ―水文化教育の構想と実践（その14）―	[06B08] 山田 一裕 中国山西省における水環境教育の導入への試行	[06B09] 天野 雅夫 コモンズとしての水辺のガバナンス ―ため池の利用と合意形成をめぐって―	総合討論
C会場 309 ESD	[06C04] 原賀 いずみ 教員養成・保育士養成におけるESDアートの可能性について	[06C05] 二ノ宮リム さち ESDとしてのパブリックアチーブメント型教育～大学教育に対する「社会的要請」とはなにかを考える	[06C06] 三宅 博之 北九州市における食品ロス削減学生プロジェクトの実施とESDの関係性に関する研究	総合討論
D会場 206 被災地	[06D04] 高橋 一秋 「大学生と小学生が相互に学び合う学習プロセス」の設計と実践：被災地里山救済・地域性苗木生産・植栽プロジェクト（たねぷろじぇくと）の取り組み	[06D05] 河野 祐弥 東日本大震災と福島第一原発事故の教訓を伝える施設に関する研究 ―福島における取り組みの調査と水俣との比較―	[06D06] 秦 範子 コミュニティ再生のための地域間交流の意義と課題―気仙沼市本吉町前浜地区における「椿の森プロジェクト」を事例に―	総合討論
E会場 207 幼児体験・デザイン	[06E07] 岩﨑 慎平 節水節電エコ体験プログラムが与える幼児への影響およびプログラム有用性に関する評価	[06E08] 山本 俊光 幼少期に野外活動をよくした若者の社会性	[06E09] 山口 雪子 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究（2）	総合討論
F会場 208 スタディツアー	[06F07] 楠美 順理 スタディツアーにおける潜在的教育機会の探求	[06F08] 山藤 旅聞 行動力につなげる環境教育 ～中高生対象ボルネオスタディツアーの実践報告～	総合討論	
G会場 209 環境意識	[06G07] 小柳 知代 自然環境に対する親世代の認識が子世代の意識・行動に及ぼす影響 -大学生の名前に着目して-	[06G08] 渡辺 隆一 長野のユースの環境意識	[06G09] 大塚 啓太 環境教育に関する「学習観」尺度の作成	総合討論
H会場 210 Formal and non-formal educcation	[06H04] Hung, Pei-Jung A study on Instructional Strategy Development for Improving Environmental Literacy of Junior High School Students	[06H05] Hsu, Yi-Hsuan The Status of Learning Outside the Classroom in Southern Taiwan	[06H06] Shinji Murai The interpretation of different approaches to the outdoor experience: can they inform outdoor environmental education in Japan?	Discussion

8/6(土)	12:45～	13:00～	13:15～	13:30～
A会場 307 評価	[06A10] 正阿彌 崇子 環境教育プログラムの比較評価の研究	[06A11] 浜 泰一 『環境教育』に掲載された環境教育プログラムの整理	[06A12] 阿部 治 環境教育絵図の作成から見た日本の環境教育	総合討論
B会場 308 里山里海	[06B10] 大西 知芳 里山林の林縁部に発生する住民摩擦に関する研究 ～環境教育による緩和の可能性～	[06B11] 桜井 良 里海を題材とした中学生への海洋プログラムの教育効果測定	[06B12] 菅 尚子 研究への展開を見据えた生態学実習 -佐渡島における森川海実習での取り組み-	総合討論
C会場 309 ESD	[06C07] 國政 歩美 ケニアの環境教育・ESDを取り巻く現状とその変遷 -計量書誌学的な分析を通じて-	[06C08] 溝田 浩二 産直が拓く環境教育の新たな地平：「遊び仕事」の現代的活用をめざして	[06C09] 野口 扶美子 ことば、知、権力：地域づくりの文脈におけるインフォーマルなESDに関する検討	総合討論
D会場 310 CSR	[06D07] 藤木 勇光 「CSR活動の評価検討会」の活動とその成果、チェック・リストの概要について	[06D08] 太刀川 みなみ 企業・NPO・大学生の三者協働プロジェクトにおける大学生に向けた環境教育・人材育成における実践と課題	[06D09] 根本 和宜 企業のCSR活動としてのESDプログラム事例の評価～参加者の保護者の視点から～	総合討論
E会場 207 批判的 環境教育	[06E10] 小野瀬 剛志 批判的環境教育の理論化のための基礎的考察：交換様式から見る自然と社会の理論	[06E11] 原子 栄一郎 社会批判的環境教育論について	総合討論	
F会場 208 ツーリズム	[06F09] 樊　露 中国のジオパークにおける環境教育の現状と課題——河南省雲台山ジオパークの事例を中心として——	[22F10] 君島 俊克 エコツーリズムにおける環境教育的課題	[06F11] 大島 順子 野生生物の観察作法を学び、適切な行動を導く学習 ーワイルドライフ・ツーリズムにおける環境教育の役割ー	総合討論
G会場 209 自然・生活	[06G10] 三木 柚香 「生きる」からとらえ直す環境教育原論 -六甲山に「生きる」人々の自然との関連の中から-	[06G11] 小栗 有子 〈内なる自然〉から環境教育を考える	総合討論	
H会場 210 Methods and concepts	[06H07] Lee, Jae Young Environmental Education through the Event-based Environmental Exploration Approach	[06H08] Ebihara Seiji Of environmental programs by the food and culture,the impact on behavior change and parents.	[06H09] Junichi Fujino Transition analysis of environmental education transfer from Kyoto city to Iskandar Malaysia	Discussion

8/7(日)	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A会場 307 アクティブラーニング	[07A01] 太田 貴大 環境政策学における政策過程論のアクティブラーニングに資するボードゲーム制作プロセス：学部高等教育での教育実践及び効果	[07A02] 新田 和宏 環境教育におけるディープ・アクティブ・ラーニングの成立要件	[07A03] 豊田 正明 学内農園を用いたアクティブ・ラーニングと地域連携活動の可能性	総合討論
B会場 308 自然環境	[07B01] 福田 直 土壌リテラシーの育成に向けた土壌教育の在り方とその構築	[07B02] 小泉 伸夫 持続可能なカモ科鳥類の越冬環境作りのための給餌コントロールは必要か？	[07B03] 甲野 毅 市民による緑地の合意形成過程に関する研究・2	総合討論
C会場 309 ESD	[07C01] 大石 康彦 ドイツHAUS DES WALDESにおける展示の変遷（2002～2015年）にみられる環境教育・森林教育とESD	[07C02] 森 朋子 環境教育・ESDプログラムの類型化と日本のプログラムの課題抽出 ～サステナビリティ・トランジションの観点から～	[07C03] 小倉 亜紗美 地域住民参加による熱帯雨林再生活動を通じたESDプログラムの構築	総合討論
D会場 206 施設・ 外部資源	[07D01] 鈴木 榮一 ごみ処理系施設の環境啓発（学習）のあり方を考える	[07D02] 榎本 充孝 外部資源を活用した教育効果の向上 ～花王・教員フェローシップ生物多様性支援プログラム参加を通して～	[07D03] 花嶋 温子 循環型社会啓発施設の評価に関する研究	総合討論
E会場 207 評価・計画	[07E01] 関谷 善行 環境教育教材「くらしのエコチェック」の組織的企画と活用	[07E02] 牧　宏 なごや環境学習プラン作成について	[07E03] 熊谷 直行 講座のアンケート結果から見る参加者の学びの視点 −千葉県環境研究センター公開講座から何を学んだのか−	総合討論
F会場 208 気候変動	[07F01] 中村 洋 小学校における気候変動への適応に関する学習の実践と効果	[07F02] 古瀬 浩史 自然公園における気候変動のインタープリテーション	[07F03] 井原 妙 地域協働型 参加型気候変動防止教材ツールの開発事例 ～ツール開発を通した指導者育成と地域活性化～	総合討論
G会場 209				
H会場 210				

8/7(日)	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
A会場 307 アクティブ ラーニング	[07A04] 畑田 彩 文系大学環境学系科目でのアクティブ・ラーニング －大講義で「環境を観せる」授業は可能か？Part3－	[07A05] 中西 敏昭 生涯学習の一環としての大学におけるアクティブ・ラーニングについて ―理科教育・環境教育を例として	[07A06] 渡邊 司 探究型実験によるアクティブ・ラーニングの実践～オリジナル風車の考案と発電量評価～	総合討論
B会場 308 自然体験	[07B04] 本多 孝 子ども達への環境問題解決行動につながる自然体験型環境教育の取り組みについて	[07B05] 中川 宏治 地域住民の選好に基づいた自然体験学習施策の評価	[07B06] 山形 泉 自然体験プログラム受講による参加者意識の変容への一考察	総合討論
C会場 309 ESD	[07C04] 斉藤 雅洋 地域づくりにおけるESDの創造と展開	[07C05] 林 浩二 「ミュージアムとコレクションの保存活用等に関するUNESCO勧告」(2015年)から考える博物館とESDの関係	[07C06] 元木 理寿 島嶼におけるESD展開と地域学習教材づくりの課題	総合討論
D会場 206 災害・放射線	[07D04] 藤岡 達也 環境教育における「防災・減災」取扱いの意義と課題 －なぜ，自然災害・原子力災害は繰り返されるのか－	[07D05] 野澤 樹 全国の自治体における放射線教育の特性把握	[07D06] 後藤 忍 放射線教育用DVD教材を用いた批判的思考に関する教育実践 ～大学生を対象とした講義の前後における認識の分析～	総合討論
E会場 207 サイエンカフェ	[07E04] 東 照晃 伯太高校サイエンス・カフェとボランティア部 －ミツバチ飼育と地域の保全活動－	[07E05] 飯田 貴也 サイエンスカフェによる「環境コミュニケーション」促進の可能性 ―新宿区立環境学習情報センター『サイエンスカフェしんじゅく』を事例に―	[07E06] 斎藤 千映美 動物飼育活動は学生に何をもたらすか？	総合討論
F会場 208 測定	[07F04] 髙木 祥太 都市域のCO_2濃度データを利用した環境教育の教材開発 －探求的な学習活動の教材としての有効性に着目して	[07F05] 梅田 真樹 東大阪市の道路粉塵および街路樹葉の重金属蓄積	[07F06] 古川 翔太 韓国の高校生を対象とした環境教育プログラムの実践 ～パッシブ・フラックス・サンプラー法を用いたヒト皮膚ガスの測定～	総合討論
G会場 209				
H会場 210				

8/7(日)	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
A会場 307 養成	[07A07] 榊原 洋子 教員養成大学における石綿環境教育の実践	[07A08] 西城 潔 放置竹林を活用した教員養成大学での環境教育の試み	[07A09] 神村 佑 環境教育人材養成と大学地域間連携について	総合討論
B会場 308 栽培・生活	[07B07] 櫃本 真美代 保育者・小学校教員養成における栽培活動の実践	[07B08] 三島 孔明 ムシの嫌われる要素と理由・背景およびムシ嫌い克服方法の検討	[07B09] 笠井 利浩 小中学校におけるライフサイクル思考に基づく環境教育プログラム	総合討論
C会場 309 ESD	[07C07] 岩本 泰 SDGsの達成に向けた環境教育を考える－ESDGsの具体的な展開に向けて	[07C08] 森谷 昭一 知識論から考える環境教育学およびESD	[07C09] 早川 有香 持続可能な開発のための教育（ESD）事例におけるステークホルダー連携に関する考察	総合討論
D会場 206 プログラム開発	[07D07] 牧口 未和 楽しみながら学ぶアクティビティ「葉っぱでつくろう」の提案と実践	[07D08] 矢ケ崎 朋樹 みどりをテーマとした学習講座プログラムの開発と実践	[07D09] 内田 竜嗣 自然保護をテーマとした短編ストーリーマンガの作成とその読者の意識変化	総合討論
E会場 207 協働	[07E07] 北村 祐介 東京都市大学グループの連携・協働による環境教育プロジェクト ～SDGsを活かした環境教育構想と実践進捗の報告～	[07E08] 米川 久子 小学校におけるNPO・学校・地域協働型環境教育の開発と普及 －認定NPOアサザ基金の環境学習を事例として－	[07E09] 松岡 宏明 ハワイ自然保護区における協働のデザインとその特徴：ハナウマベイ自然保護区を事例に	総合討論
F会場 208 生物多様性	[07F07] 河村 幸子 子どものための生物多様性学習プログラムの開発と実践 ～ジャコウアゲハを題材にして～	[07F08] 猪俣 寛 ジュニアもりレンジャー実践報告 ～場とモチベーションが子供を変える～	[07F09] 長島 康雄 環境教育におけるEco-DRRの視点の意義 －小学校理科B 生命・地球領域「流水のはたらき」を事例として－	総合討論
G会場 209				
H会場 210				

8/7(日)	13:00～	13:15～	13:30～	13:45～
A会場 307 高等学校	[07A10] 飯尾 美行 工業高校の「課題研究」授業を通しての環境教育 -地球にやさしいエンジニアの育成-	[07A11] 荘司 孝志 教科「環境」の授業について	[07A12] 須田 玲子 持続可能な社会のため環境教育(高等学校課程)～身近な地域の現状認識と国際環境倫理が持続可能な社会のための教育である～	総合討論
B会場 308 生きる力	[07B10] 坂本 明日香 湿地を活用した幼児教育・非認知スキル開発プログラム研究 —「ペリー就学前教育に着目して（1）」—	[07B11] 宮本 康司 親子向け環境学習講座が保護者の生きる力に与える影響の性別特性	[07B12] 井上 智裕 環境教育を通した自己肯定感の育成 ～笠岡湾におけるアマモ場再生を目指して～	総合討論
C会場 309 ESD	[07C10] 遠藤 晃 地域の自然を活用したプロセス重視型環境教育の研究実践 – ESDとアクティブラーニングの視点より –	[07C11] 樋口 利彦 環境教育・ESDで行われている地域連携の小学校教員による評価	[07C12] 八長 康晴 小学校ESDエネルギー分野の指導と評価について	総合討論
D会場 206 文化・ コミュニティ	[07D10] 飯塚 宜子 多様な異文化の民俗に学ぶ環境教育	[07D11] 西川 祥子 明舞団地における「環境教育コミュニティー」の現状と課題	[07D12] 烏　蘭 NPOによる内モンゴル砂漠化防止活動の実態と課題 ～NPO法人「草原の風」の実践事例から～	総合討論
E会場 207 環境リテラシー・配慮	[07E10] 富村 芽久美 デミングサイクルによる管理の可能性評価 —みちのくEMS認証取得高校の事例から—	[07E11] 小林 佳史 愛知万博を契機とした市民の環境行動の変容と展望	[07E12] 田子 博 環境教育教材の作成を通して教材作成者の環境リテラシーは向上するか	総合討論
F会場 208 農と食	[07F10] 田中 浩之 食農教育を通して自然を捉えなおす ーいろいろなことに「気づく目」「感じる心」を養うー	[07F11] 浅岡 みどり アグロエコロジー（農生態学）の教育的側面の分析 -カリフォルニア大学サンタクルーズ校の試みを中心に-	[07F12] 中村 菜摘子 ジビエ産業の可能性と課題	総合討論
G会場 209 社会	[07G01] 杉浦 公昭 米軍基地新設への非暴力抵抗は、自然環境・平和・命を守る ～座込み学習を如何に大衆の環境教育に活かすか～その2	[07G02] 岩田 和明 馬とともにある「いつもの暮らし」が作る持続可能な社会	総合討論	
H会場 210 ESD and national curriculum	[07H01] Chang, Tzu-Chau Infusing Environmental Education into National Curriculum Framework in Taiwan	[07H02] Fumiko Noguchi Language, knowledge and power —Key considerations in informal ESD in a community development context	[07H03] Paul Ofei-Manu Multi-stakeholder Participation and Networking as MoI for SDG4 and Other International Education Initiatives: The Case of the Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development	Discussion

ポスター発表　（☆は高校生の発表です）

＜104 教室＞

P01　○早川 礎子：保育内容(環境)についての一考察　-発達段階の理解と園環境への留意点について
P02　○高月 紘：マンガを活用した環境教育
P03　○坂井 宏光：クリーナープロダクション（CP）に基づくアジア地域の環境保全に関する研究
P04　○田村 和之：徳島の星空：光害の予備調査
P05☆○末川 遥菜（鹿児島県立甲南高等学校 3 年生）・有嶋 宏一・落 雅博（鹿児島県立甲南高等学校）・萩原 豪（高崎商科大学）：高齢者の社会環境改善のための廃校活用の提案 —鹿児島県曽於市における事例研究—
P06☆○吉留 梨央（鹿児島県立甲南高等学校 3 年生）・有嶋 宏一・落 雅博（鹿児島県立甲南高等学校）・萩原 豪（高崎商科大学）：Warka Water とスーダンとの国際交流から考える国際的な水問題と SDGs 普及の可能性
P07　○李 恵芸：食と農をめぐる環境教育の可能性
P08　○椿 剛史：中学生を対象とした環境教育～大学生及び NPO 会員による支援の検討～
P09　○高 書金：中国における環境団体の活動状況と課題
P10　○池田 四郎：韓国の高校生を対象とした環境教育プログラムの実践および教育効果の検討
P11　○小河原 孝生：生物多様性保全のための市民参加型生きもの調査
P12　○梶浦 恭子：自然物を用いた幼児の造形活動における指導のあり方
P13　○高橋 正昭：地域連携による環境調査活動
P14　○寺本 洋次郎：環境教育におけるコミュニケーションロボットを用いた最適な教育形態の検討 -ロボットと子どもの関わり方の違いによる環境教育の効果の分析-

＜106 教室＞

P15　○吉野 睦美：地球規模課題への視座を育む教育における消費という視点
P16　○土田 真輝：コンパクトシティにおける交通政策に関する研究
P17　○藤澤 亮：津波被災地における高校生の思い出のカテゴリーと将来への思いの関わり
P18　○菊池 章仁：里川づくりに向けた河川環境教育の検討
P19　○渡部 聡：都市部の小学校における環境教育の現状と課題の一考察 -品川区の小学校を事例に-
P20　○飯島 明宏：河川を利用した体験型環境教育プログラムの実践 ～テキストマイニング分析による学習効果の測定～
P21　○前田 好美：地域小学校との連携による環境学習計画とその試験的実施について
P22　○藤原 道郎：地域景観を軸にした保育所から大学院までの取り組み（専門職大学院と保幼小中高大連携）
P23　○栗原 智美：災害を意識した野外炊事実践の考察 ～中学生における実践～
P24　○村松 陸雄：時間的展望が持続可能な開発目標（SDGs）の評価に及ぼす影響
P25　○石塚 杏奈：コーヒー粕抽出液の農業利用の可能性
P26　○平田 将大：音（振動）に対する植物の応答
P27　○加藤 美由紀：ウプサラ自然学校に見る野外教育の必要性 —Uppsala Natur Skola を視察して—
P28　○齊藤 由倫：環境データを考察させる教育が児童・生徒にもたらす効果

＜107 教室＞

P29　○武田 華生：環境教育プログラム運営における大学生の学びと課題
P30　○伊藤 貴則：「ツリーハウス・ツリークライミングの体験が自然への興味を惹きだせるか？」
P31　○Kilonzi, Francisca：Stakeholders and ecosystem services identification for sustainable peat land use in Central Kalimantan, Indonesia: focus on educational role

P 32☆○大内 純菜・高橋 美紀・菅野 貴弘・佐藤 真希（相馬農業高等学校生産環境科 3 年）・木幡 美卯・太田 睦美・佐藤 愛唯（相馬農業高等学校食品科学科 2 年）・藤原 忍・斎藤 勇樹・赤崎 直樹（相馬農業高等学校生産環境科教諭）：地域の多様な主体との協働による農業実践・普及活動 ～相馬農業高校による「ふるさと」の活性化を目指して～

P 33 ○村山 史世：師弟同行型 PBL による ESD の実践

P 34☆○小川 岳紘・及川 拓朗（埼玉県立熊谷西高等学校）・丸兒 明日香・上原 祥太朗・小林 亜沙人(埼玉県立越谷北高等学校)・黒田 峻平(海城中学高等学校)：高校生によるチームアライグマの活動成果 ～外来生物問題に対する意識の変化～

P 35 ○松重摩耶：絵画内容からみる幼児を対象とした環境学習についての一考察

P 36☆○鴻巣真央・加藤里奈・森口佐和子・別所佑香（都立両国高等学校）：ボルネオスタディツアー報告～行ってきたよ、見てきたよ、ボルネオのことを知ってほしい！～

P 37 ○前田真里：海水池の環境改善を目的にした学童児童との環境学習の評価

P 38 ○田中卓也：大学および教育委員会との連携事業としての里山活動における教師養成（第 3 報）

P 39 ○中田功大：オオムラサキ・バタフライガーデンを活用した生態学教育の実践と学習効果

P 40 ○Lai, Lian-You：Development of Instructional Strategies for Improvement on Public Environmental Literacy

P 41 ○Luo, Chen-Han：A Study on Instructional Strategy Development for Improving Environmental Literacy of Elementary School Students

P 42 ○Lin, Su-Hwa：Inspection Plan and Current Situation of Environmental Education Facilities and Venues in Taiwan

---

【若手会員の集い】

「若手が考える 20 年後の環境教育」プロジェクト第 2 弾

―モチベーションアップ・ワークショップ―

主催：若手会員活性化ワーキンググループ（桜井良・石山雄貴・中村和彦）

日時：2016 年 8 月 5 日（金）16:00~18:00

会場：北 1 号館 3 階 308 教室

対象者：今後 20 年間、なんらかの形で環境教育に携わっていきたいと考えている若手（心が若手な方なら誰でも）を歓迎いたします。

プログラム：

開催挨拶・趣旨説明・昨年度のワークショップの概要（桜井良） 5 分

話題提供 昨年のワークショップ参加者（大塚啓太・早川有香） 10 分（5 分 ×2 名）

若手会員活性化ワーキンググループの説明（中村和彦） 5 分

意見交換 「私は何をするか・若手会員活性化のために何が必要か」

（数名のグループに分かれてのフリートーク） 60 分（30 分 ×2 セット）

意見表明 「私はまず、何をするか？」 30 分

（問い合わせ先：桜井良 ryo223sak@yahoo.co.jp）

環境教育学会誌へ論文投稿をめざす方のための

論文の書き方セミナー

日本環境教育学会編集委員会では、当学会誌への論文投稿をめざす方々を対象に、今年も年次大会にあわせて「論文の書き方セミナー」を開催します。今回は、大学院生や若手研究者等の会員で今年度組織された「若手会員活性化ワーキンググループ」より、当学会誌に掲載された論文著者等のなかから「ぜひこの方の話を聞きたい！」と挙げられた方々に、話題提供をお願いしました。また冒頭には、編集委員長より編集方針や最近の投稿傾向等について説明します。話題提供者との質疑応答のほか、自由な質問・意見交換の時間も設けます。

若手会員のみならず、当学会誌への投稿を考える幅広い方々のご参加をお待ちします。

日時：2016 年 8 月 5 日（金）18 時～20 時

場所：学習院大学（目白校地）北 1 号館 3 階 308 教室

＜話題提供＞

●荻原　彰　氏（日本環境教育学会編集委員長・三重大学）
「『環境教育』の編集方針について」

●中川　宏治　氏（近江環境政策研究会）

「海外を事例とした研究のポイントおよび査読への対応」

●浜　泰一　氏（東京大学）

「授業実践を論文として発表する工夫

－神奈川総合産業高校 SSH 課題研究授業」

●二ノ宮リム　さち　氏（東海大学・日本環境教育学会国際交流副委員長）

「①大学の ESD をテーマとした質的調査研究事例に関する報告

②今後の国際共同研究推進へ向けた学会の取組み」

主催：日本環境教育学会編集委員会・

若手会員活性化ワーキンググループ

問い合わせ：日本環境教育学会編集委員会　セミナー世話人
二ノ宮リム　さち　（東海大学）
電話：0463-58-1211（内線 2856）　Email：sachinl@tokai.ac.jp

第8回　環境教育教員セミナー
『アクティブ･ラーニングと環境教育･ESD』

日　時:　２０１６年８月６日（土）10時～13時
会　場:　学習院大学　目白校地　北1号館3階

対　象　:　日本環境教育学会会員・環境教育に関心のある教員など一般、100名

申　込　:　事前申込にご協力ください　※学会サイト（http://www.jsoee.jp/）からお申込ください。
※定員に達していない場合は当日参加も可。

資料代:1,500円
※資料として2016年6月に発刊した「アクティブ・ラーニングと環境教育」
（日本環境教育学会編／小学館発行）をお渡しします
※資料代は当日お支払いください。（受付9:30～）

主　催:日本環境教育学会
後　援:文部科学省・環境省・経済産業省・国土交通省・農林水産省・東京都教育委員会・
豊島区教育委員会・全国小中学校環境教育研究会・（公社）日本環境教育フォーラム

10:00－10:45 基調講演
『アクティブ・ラーニングと環境教育･ESD～学習指導要領の改訂を見据えて』
講師:日本環境教育学会　諏訪哲郎　会長
2020年度から小中高校で順次導入される新学習指導要領の柱となるアクティブ・ラーニングにおける環境教育・ESDの可能性について考えます。

（それぞれの分科会の紹介、会場に移動）

11:00－13:00 分科会
『アクティブ・ラーニングを体験』
①学校から環境を考えよう／ 講師　丸谷聡子（明石のはらくらぶ）
②地域の環境を考えよう　／ 講師　高田研（都留文科大学）、**西村仁志**（広島修道大学）
③世界を見直して環境を考えよう／講師　栗原清（学習院初等科）
希望する分科会に分かれて、「アクティブ・ラーニングと環境教育（日本環境教育学会編）」を資料として、記載されたプログラムなどを実際に体験します。

【問合せ先】　学習院大学教育学科　飯沼研究室　TEL　03-5904-9338
メール　20130001@gakushuin.ac.jp

INTERNATIONAL DISCUSSION MEETING FOR A SPECIAL ISSUE OF JAPANESE JOURNAL OF ENVIRONMENTAL EDUCATION: ENVIRONMENTAL EDUCATION IN ASIA (JJEE-EEA2016)

Date: August 7, 2016 Time: 9:00-11:50, 14:10-15:00 Language: English

Venue: Room 210, Buld. West 1 (西 1 号館 210 教室), Gakushuin University

Come join our meeting to share ideas, practices, and theories of environmental education in the Asian region, based on draft articles submitted for JJEE-EEA 2016 – a special issue of Japanese Journal of Environmental Education to be published in March 2017. The meeting is open for everyone interested, and the discussion will provide feedback to the authors to improve their drafts.

Coordinators/ Chief-editors: Shinichi FURIHATA (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan Society of Environmental Education (JSOEE)) Sachi NINOMIYA-LIM (Tokai University, JSOEE)	
9:00AM-9:50AM **Session 1:** **EE in Formal Education** Commentator: Jae-Young LEE (Kongju University, Korean Society for Environmental Education (KSEE))	1-1. EE in formal education in South Korea
	1-2. EE in formal education in Taiwan
	1-3. EE in formal education in Japan
	Discussion
10:00AM-10:50AM **Session 2:** **EE in Non-formal Education** Commentator: Yuko OGURI (Kagoshima University, JSOEE)	2-1. EE in Non-formal education in Korea
	2-2. EE in Non-formal education in Taiwan
	2-3. EE in Non-formal education in Japan
	Discussion
11:00AM-11:50AM **Session 3:** **Research Trends in EE** Commentator: Eiichiro HARAKO (Tokyo Gakugei University, JSOEE)	3-1. Research Trends in EE in Korea
	3-2. Research trends in EE in Taiwan
	3-3. Research trends in EE in Japan
	Discussion
<International Luncheon Meeting 12:00AM-12:50PM>	
<Oral Presentations (English Session) 1:00PM-1:55PM>	
2:10PM-3:00PM **Overall Discussion**	4-1. Insights from Australia
	4-2. Insights from North America/Europe

*The discussion will be based on draft articles written under the topics listed in the right column.
*Members of partner associations/societies (Korean Society for EE/ Chinese Society for EE/ North American Association for EE/ Australian Association for EE) are also invited to attend the meeting. Some may participate through SKYPE.